

【守谷市北部地域包括支援センター事例】

●事例1 民生委員からの相談ケース

概要	レビー小体型認知症による物忘れと被害妄想の訴えがある女性(80歳代後半)への支援。
家族構成	独居。キーパーソンは、他県在住長男(一人息子)、その妻も協力的。
支援・対応経過	1. 民生委員より相談の電話が入る。 「訪問時、近所の人や店からの嫌がらせが続いているとの訴えがある方について、どうしたらよいか。」 2. 包括職員が何度も訪問し、状況確認と傾聴を行う。 (次第に信頼関係がつくれた状況) 3. 長男に連絡をとり現状を伝え、長男夫妻の協力を得る。 4. 包括と市職員から主治医に連絡を取り、専門医への紹介状を作成依頼。 ⇒病院の相談員と連携を図り、本人の病院受診に繋げる。 (初回は家族とともにセンター職員も受診同行) 5. ご本人と長男より介護保険申請の要望あり、介護保険申請代行。 ⇒すぐに介護保険サービス利用の希望がなかったため、月1回程度、包括職員が自宅訪問し状況確認を実施。 6. 約1年後、訪問介護(生活援助)利用の希望あり。 ⇒ケアマネジャー紹介し、サービス利用開始となった。 ※認知症の薬は服用しており、認知機能については特に変化はなく、妄想の症状についても特に改善はない。 ※民生委員には、本人と家族の了解を得て、経過を報告済み。
今後の支援／課題	・今後の支援：介護保険サービスを利用しながら、包括はケアマネジャー支援として対応していく。民生委員とも情報共有していく。 ・課題：コロナ禍の為、関係者とのカンファレンス開催が難しかった。

●事例2 近隣の住民からの相談ケース

概要	引きこもり気味の男性。ゴミ屋敷で、庭の草木の茂っていて家の中の様子が見えづらく、安否が分かりにくい状況の方への支援。
家族構成	独居。(親族は不明)
支援・対応経過	1. 近隣から健幸長寿課に相談、当包括へ訪問依頼あり。 「草木が茂っており、雨戸がずっと閉まっている。安否も心配。」 2. 包括職員で訪問。

	家や庭が荒れている状況。インターフォンも鳴らないため、何度も声をかけると、本人が出てきた。髭や髪も伸び、不衛生な状況。本人は「大丈夫だ。病院に行きたいが、金には困っているから。」と言い、無理やり玄関を閉めてしまった。安否は確認。 3. 本人の拒否が強かった為、約3か月後に再度訪問。 「ひとり暮らし高齢者等緊急通報支援事業」のチラシを提供。利用希望はなし。車を運転し、買い物には行っている様子。 4. さらに、3か月後（R3.9月末）に近隣の方から、市に再度安否を心配する相談あり。安否確認のため、自宅訪問。 安否は確認したが「もう来なくていいよ！」と強い拒否があり、玄関を閉めてしまった。 ⇒安否は確認した旨を相談者に状況報告すると、安心されていた。当包括のチラシと名刺を渡し、何かあれば連絡していただくよう依頼。 5. 10月初旬、守谷市保健センター精神保健福祉士と同行し自宅訪問。 本人と面談。本人の状況に変化はなかった。 〈本人情報〉 ① いつも自宅の2階で寝て過ごす。 （常に雨戸が閉まっている為、電気での安否確認が不可） ② ガスと電話が停止中。エアコンなし。風呂は壊れ入っていない。 お金に余裕がない。 ③ 病院にはずっと行っておらず、「やっぱり行きたくない」と本人。 ④ 毎日、夕方に車で買い物に行き、値下がりした刺身とお酒を買って飲み食いしている。 ⑤ 現状が恥ずかしいから、世間に顔が出せない。
今後の支援 ／課題	今後の支援： ① 定期的に自宅訪問し、体調と安否確認。少しずつ関係性を構築し、緊急時の連絡先を確認。 ② 金銭的な問題は、必要に応じて関係機関に相談し支援体制を検討。 課題： ① 定期的な安否確認が必要。（孤独死のリスク） ※SOS（救急車を呼べない）の手段がない、連絡体制をどうするか。 ② ライフラインの確保（夏場の熱中症の危険性） ③ セルフネグレクトの可能性 ④ 経済的な問題解決／経済的な情報等を適切に把握できていない。

	⑤通報者の近所の人と本人をどうつなぐか。 ⇒現在はその都度、当包括から報告をしている状況。
--	---

【事例から考える地域のネットワーク／見守り体制づくりについて】

- ・セルフネグレクト等の可能性から介入する必要があると考えるが、訪問拒否が強く関係機関と連携して介入時期や方法を検討する必要がある。
- ・地域の見守りに関しては、近隣の方や民生委員への負担が重くならない程度（どのような内容を依頼するか）に、協力していく必要がある。